



第2回ブラッシュアップタイム 市の標準学力調査の分析をしよう

4月23日(木)に第2回目のブラッシュアップタイムを行いました。

今回は昨年度に行った市の標準学力調査の分析です。結果をもとに、学年の実態を把握し、今後の指導に役立てていくことが目的です。資料をもとに、学年ごとに、成果と課題を話し合いました。どこが伸びているのか、どこに課題があるのかを様々な数値から読み取ります。そして、実態をもとに、今後の指導にどう結び付けるかを話し合いました。

話し合った内容は Excel のシートを共有し、共同編集でほかの学年の様子も同時に見られるようにしました。最後に、話し合った内容を学年ごとに発表し、この日の研修は終了です。

目指す児童像を見据え、そこに到達するためにどのような支援が必要なのか、常に考えるために、こうした数値をもとに考えることも大切です。この日は6年生が全国学力学習状況調査に臨みました。今度、どのような問題が出ていたのか、どういった指導が求められているのか、こちらも分析してみたいものです。

出てきた意見の一部抜粋 詳しい記述は Teams のサキドリチャンネル内にある Excel ファイルをご覧ください。

- **基礎・基本の定着と課題:** 漢字の読み書きや基本的な計算などの技能面は、全学年で概ね身につけている。しかし、漢字の書き順や、問題文の読み取り、分数の概念など、特定の基礎事項に課題が残る学年もある。
- **学力の二極化:** 5・6年生を中心に上位層と低位層の差が激しく、クラス全体で再指導が必要な「パターン I」の設問が多くなっている。
- **既習事項の活用不足:** 新しい問題を解く際に「これまで習ったことをどう使うか」を考える姿勢が全国平均を下回っており、知識の活用に課題がある。

これからの指導のポイント

- **記述の心理的ハードルを下げる:** いきなり書かせるのではなく、資料の活用箇所を教えたり、「型」を提示したりするスモールステップの指導を徹底する。
- **具体物と日常生活の結びつき:** 図形や単位など抽象的な概念に対し、具体物に触れる機会を増やし、日常生活と関連づけた指導を行う。
- **対話を通じた論理的思考の育成:** 他者の考えを解釈し、自分の言葉で説明する活動を取り入れ、既習事項を活用する力を育てる。
- **基礎の徹底:** 100 ます計算や漢字小テスト、類似問題の反復などにより、下位層の底上げと基礎基本の確実な定着を図る。

